

67 ハマシギ

(チドリ目)

兵庫県ランク:C

Calidris alpina

繁殖個体群:無 越冬個体群:C 通過個体群:C

環境省ランク:NT(準絶滅危惧)

種の概要

北海道では旅鳥、本州、四国、九州では旅鳥または冬鳥、沖縄では冬鳥。兵庫県では主に8-翌5月まで見られる。干潟や湖沼、湿地、河川の植生のない水際、水田などに生息する。貝類やゴカイ類、甲殻類、ミズ類、昆虫類の幼虫などを採食する。



写真提供:松重和太

国内分布

北海道、南千島、本州、佐渡、隠岐、見島、四国、九州、対馬、屋久島、種子島、伊豆諸島、小笠原群島、硫黄列島、トカラ列島、奄美諸島、琉球諸島、大東諸島

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、姫路市、明石市、西宮市、伊丹市、豊岡市、加古川市、(赤穂市)、(宝塚市)、(三木市)、高砂市、(三田市)、加西市、(丹波市)、淡路市、(加東市)、たつの市、稲美町、(福崎町)



主要な選定理由

影響の人為性				生態の脆弱性 (特殊性)			学術上の希少性		
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら・特殊休息環境	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

新規追加種。
県南部では、かつては春秋の渡りの時期に200-500羽の群れが見られていた。1974年4月には西宮市甲子園浜で2,000羽の大群が記録され、1988年には1,000羽単位の越冬群も記録されている。近年の生息地の消滅に伴い個体数が減少しているが、一方で少数個体の越冬も確認されている。県北部でも記録されるが多くはない。

保護上の留意点

現在もわずかに残されている干潟や河口などの自然環境の保全が重要。また、生物の多様性を守ることを目的とした定期的な池干しなどによるため池の維持管理も重要。